

<企画 3> 国際シンポジウム

テーマ「グローバル時代の日本語教育を考える」

【基調講演】

グローバル時代の日本語教育

森山 新（お茶の水女子大学 日本）

【パネルディスカッション】

各国の現状報告

韓国の日本語教育における新たな試みーJ-GAP とディベート大会をもとにー

諏訪 昭宏（釜山外国語大学 韓国）

転換期を迎えた日本語教育の挑戦ー中国理工系大学の取り組みー

王 冲（大連理工大学 中国）

タイにおける日本研究の歩みと課題

中井仙丈（チェンマイ大学 タイ）

進化する日本語教育に対する試みーワルシャワ大学日本学科の場合ー

岡崎恒夫（ワルシャワ大学 ポーランド）、佐野香織（お茶の水女子大学）

カレル大学における日本語の教育

金杉ペトラ（カレル大学 チェコ）

日本語教育と「外からの目・内からの目」ードイツ・ボン大学の場合ー

吉岡薫（ボン大学 ドイツ）

文化理解教育に向けた考察ーポピュラーカルチャーの授業を通してー

ドラージ土屋浩美（ヴァッサー大学 アメリカ）

Japanese Language Education
in the Global Era
グローバル時代の日本語教育

MORIYAMA, Shin (Ochanomizu University)



お茶の水女子大学
Ochanomizu University

1. はじめに

*グローバル時代の日本語教育を考えるにあたって

- ①日本語教育：「言語」だけの枠組み
→「言語」を越えた「文化」という視点
- ②日本語教育：「国」の枠組み
→「国」を越えた「地域／世界」という視点
- ③言語：コミュニケーション→理解による和合
しかし、言語教育はグローバル時代に
「和合」をもたらす力となりえていない。
異文化理解→領土問題、歴史、国を越えた諸問題

2. グローバル時代の日本語教育：基本的考え方

2.1.文化を取り入れた総合的日本語教育

- ・言語＋文化
- ・これでいいのか

2.2.ヨーロッパの複言語・複文化主義

- ・ヨーロッパ→東アジア
- ・Global Citizen育成の理念となるには

2.3.オーストラリアの多文化主義

- ・日本の「多文化共生」の限界
- ・「自文化優位」をいかに乗り越えるか

2.1.文化を取り入れた総合的日本語教育

李（2002）：総合的日本語教育の提案

李（2009）：教授法としての交流（交流法）

*グローバル時代は共生の時代、言語に対する理解だけでなく、文化に対する理解が求められる

佐々木（2002）：日本語教育で扱われる文化とは

- ①所産・知識としての文化
- ②他者との相互作用に介在する文化
- ③個としての文化

*グローバル時代に扱われるべき文化とは：①国から個へ、②知識から能力（リテラシー）へ

2.2.ヨーロッパの複言語・複文化主義

①国を越えた「地域共同体」形成のための基本理念
ヨーロッパは二度にわたる世界大戦の経験から、それを繰り返すまいと固い誓いを行う

1949年に「欧州協議会（Council of Europe）」が
発足、民主主義と法の支配の保護、人権保護、ヨーロッパの文化的アイデンティティと多様性の促進をめざし、言語教育政策を進めてきたが、その集大成が「複言語・複文化主義」

国の枠を超えた地域共同体を作るために行きついた（言語と文化に対する）理念

2.2.ヨーロッパの複言語・複文化主義

②多言語・多文化主義／複言語・複文化主義

多言語・多文化主義：「一地域」に多言語・多文化が存在することを「社会レベル」で尊重・促進する
「macro的姿勢」

これに対し、

複言語・複文化主義：「個人」の中に複数の言語・文化が存在することを、「個人レベル」で尊重・促進していく「micro的姿勢」

2.2.ヨーロッパの複言語・複文化主義

③言語・文化を「国」から「個」へ

複数の言語：個人が持つ単一の能力と考える

→個々人が国を越えた視点とアイデンティティを形成し、円滑な相互作用ができるようにする

→国を超えた人材の育成

*個の中に「複言語・複文化状態」

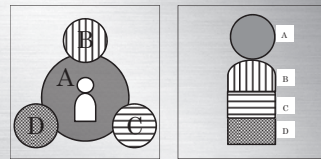
→「複言語・複文化」の地域共同体市民を育成

→地域共同体を建設

*「教育」が人を育て、世界を変える

*「外国語」教育から「複言語」教育へ

*「異文化理解」教育から「複文化」教育へ



× 各国の言語・文化の中に個を位置づける

○ 個の中に複言語・複文化を位置づける

→国を越えたアイデンティティを育成

*第二言語教育→個体内に複言語・複文化

→国を越えたアイデンティティ育成

*複数の言語と文化を学べばいいのか？

2.3.オーストラリアの多文化主義

オーストラリア

1901年：単文化主義（White Australia policy）

1960年：同化政策（cultural assimilation）

1973年：多文化主義政策（Galbally Report）

1999年：新世紀のためのオーストラリア多文化主義（multiculturalism）

*アイデンティティの多様性を前提とし、市民としての義務を履行することを求める

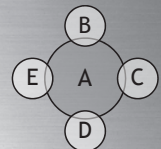
均一性（homogeneity）による調和

：同化、統合

→自文化中心のアイデンティティ

→包含できない存在は排除、対立

、同化・統合を要求

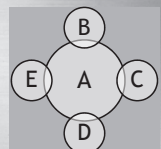


多様性（diversity）の調和

：多様性を包含、共生へ

→多様性をアイデンティティに

→白人の優位性保障：オーストラリア多文化主義の限界



多文化主義を促進するための言語教育

→ESL & LOTE

・ 国（連邦政府）の言語政策：①全国民に英語教育、②全国民にLOTE教育、③アボリジニの言語教育

・ South Australia州：多文化社会において最も要望されるのは複数の言語に精通することであり学校は英語以外の言語学習を奨励すべき

・ Queensland州：言語教育を通して多文化主義を促進

*言語教育で多文化主義はほんとうに実現できるのか？

塩原（2010、2012）「異なる他者とのように関わるべきか」の答えとしての「多文化主義」

→居場所を共有し差異を認め、差異を越えた日常的な対話と協働の実践を通じ社会構造の変革を

「居場所」：国内→地域／世界に拡大することで、

「対話と協働の実践」を通じた「日韓関係の変革と東アジアの共生」「グローバルな世界の共生」を考える際の参考になる

cf.以下の実践事例



3. 実践事例

- ①複言語教育 (Plurilingual Education)
- ②複文化教育 (Pluricultural Education)
- ③総合的教育 (Holistic Education)
- ④グローバルな協働 (Global Cooperation)

TV会議システム合同授業＋セミナー、フォーラム
→「**多言語・多文化の共環境**」を造成、「**対話と協働**」の実践を通じグローバル時代にふさわしい人材育成

- (1) 日韓大学生国際交流セミナー
- (2) MMCCと国際学生フォーラム



3. 実践事例

- ・ 総合的日本語教育：文化を取り入れ、(知識から)能力を重視する試み
- ・ 複言語・複文化主義：「個人の能力としての複言語・複文化状況」の育成を重視、「国」を越え理解し合う枠組み
- ・ 多文化主義：オーストラリアが課題とする「自己・自文化優位」を乗り越える方案
→「**居場所**」を共有し、「**対話**」と「**協働の実践**」を重視

3.1.日韓大学生国際交流セミナー (2012年の事例)

1) 複言語・複文化主義の実践

複言語：日韓など

- ・ 韓国側の学生は日本語ができる学生を選抜する
- ・ 日本側の学生は韓国語学習の時間を義務付ける
- ＊複言語化を進め対話の対等性の確保が今後の課題

複文化：国を越えた視点

「**自文化中心主義**」「**文化相対主義**」を越え「**心のグローバル化**」をめざす

- ・ 未解決の両国間の諸問題などが積極的に扱われる

- ①従軍慰安婦
- ②歴史教育と領土問題
- ③報道と交流
- ④女性の社会進出



2) 自主的な協働による共環境の実現

①国際遠隔協働学習 (4～7月)

②ホームステイ (3泊)

③合宿 (3泊)

→「**共生のための協働の環境**」を実現、「**自文化外の異文化**」を自己内に取り込み「**多様性**」とする
＝両国の視点の対立があることを前提として出発しながらも、生活を共にし、共通のゴールを設定し、両国の対立の構図を解消することで多文化的コミュニティ (塩原2010) を形成すると共に「**個の複文化化**」を実現、「**国**」の枠を超え、地域共同体市民意識とアイデンティティを育む



3.2.多言語・多文化サイバーコンソーシアムと国際学生フォーラム

3.2.1.多言語・多文化サイバーコンソーシアム

- ・TV会議システムの使用：対話の非対等性を解消
- ・対話と協働による「多文化コミュニティ」を日常化する
- ・多言語化による「対話の対等性」の促進

3.2.2.国際学生フォーラム

- ・毎年3月に8大学の学生が本学に集い、グローバルな問題をグローバルな視点から取り扱う
- 2012年：東日本大震災を考える
- 2013年：環境・エネルギー問題を考える



4. おわりに

- ・これからの第二言語教育、異文化理解教育：「国の言語／文化」という大前提を越えよ
- ・ヨーロッパ、オーストラリアなど、複文化・多文化主義を選択した国々は**教育が政策をリード**→第二言語（日本語）教育（者）はこれまでそれぞれの国が克服しえなかった国の壁、異文化の壁を乗り越える先駆者となれ
- ・FWB：GSUへ



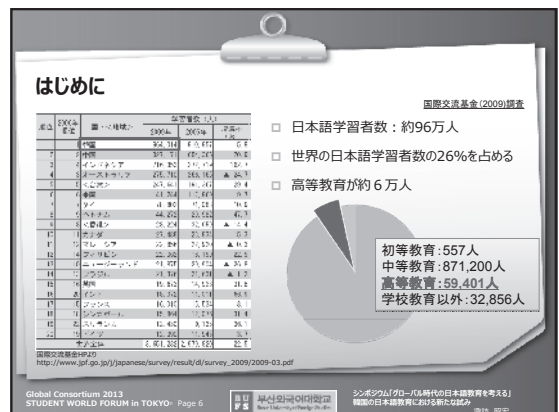
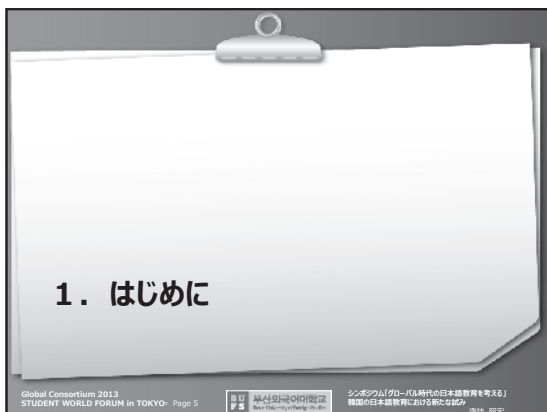
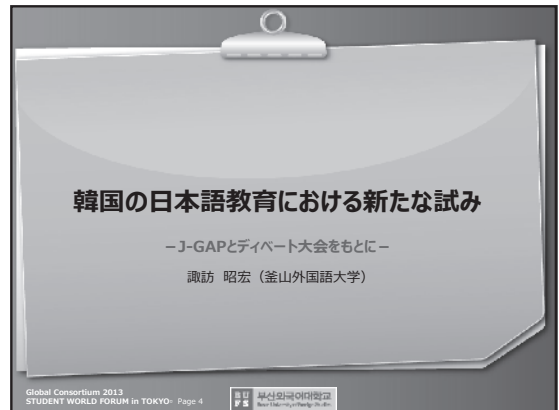
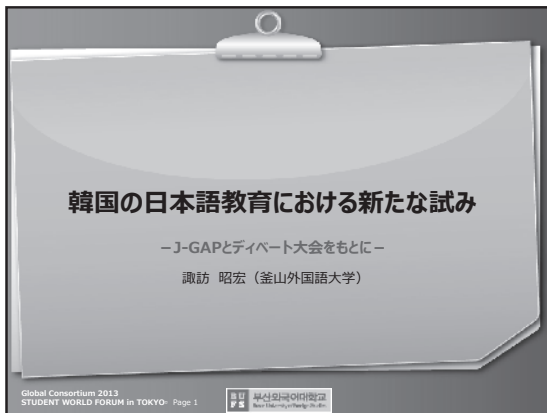
参考文献

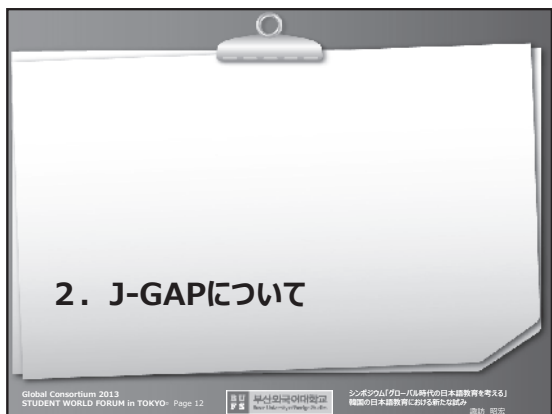
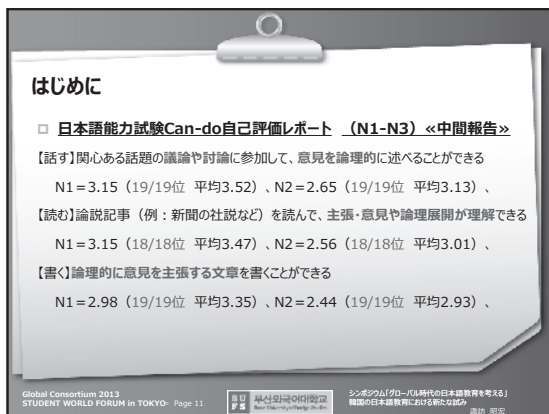
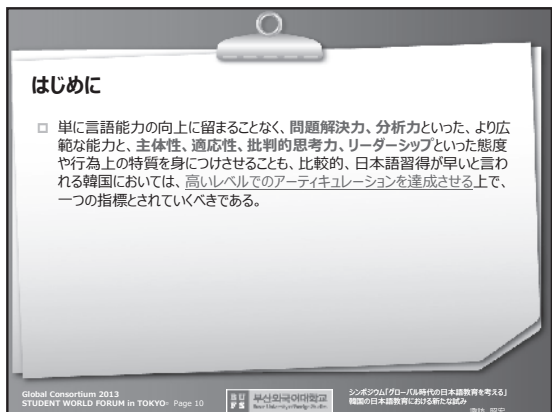
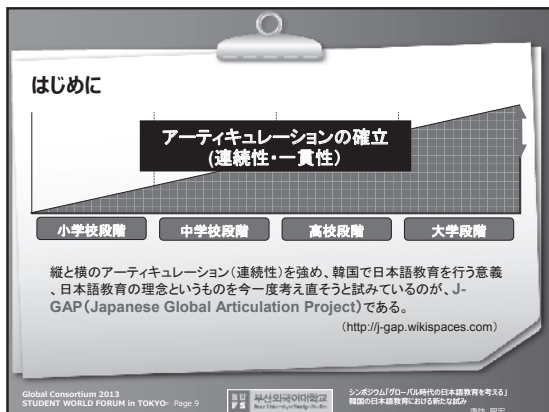
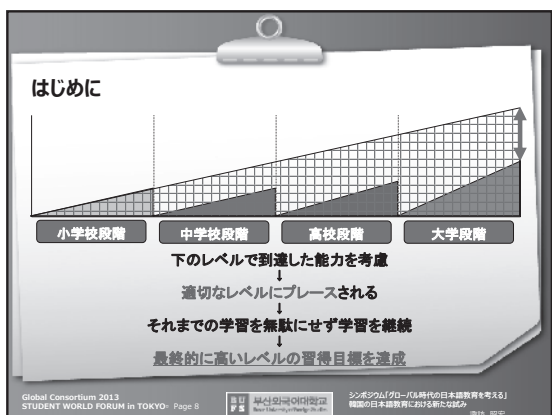
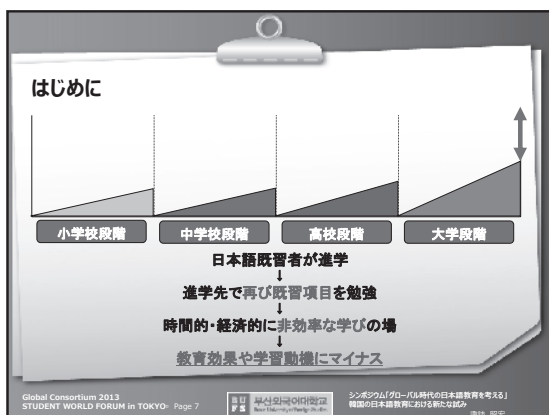
- 李徳奉（2002）「総合的日本語教育の時代に向けて」『総合的日本語教育を求めて』、国書刊行会
- 李徳奉（2006）「日本語教育を活かすためのリソース・リテラシー」『日本語教育の学習環境と学習手段に関する調査研究』、国立国語研究所
- 李徳奉（2009）「『交流法』による多文化理解教育の効果と限界」『平成20年度大学院教育改革支援プログラム「日本文化研究の国際的伝達スキルの育成」平成20年度活動報告書（学内教育事業編）』、お茶の水女子大学
- 教育史学会（2012）「多文化教育の歴史と現在～多文化から公教育を再考する」、教育史学会第56回大会シンポジウム配布資料、教育史学会
- 佐々木倫子（2002）「日本語教員と「文化」概念」『21世紀の『日本事情』』第4号、くろしお出版
- 塩原良和（2010）『変革する多文化主義へーオーストラリアからの展望』、法政大学出版局
- 塩原良和（2012）『共に生きる一多民族・多文化社会における対話』、弘文堂
- 自治体国際化協会（2011）『オーストラリアの多文化主義政策（Clair Report No.358）』 http://www.clair.or.jp/j/forum/c_report/pdf/358.pdf
- 細川英雄・西川教行（編）（2010）『複言語・複文化主義とは何かーヨーロッパの理念状況から日本における受容・文脈化へ』、くろしお出版

Page 25

- 森山新（2004）「国際日本学との連携による総合的日本語教育の可能性」『第5回国際日本学シンポジウム報告書』、第5号
- 森山新（2010a）「グローバル時代に求められる総合的日本語教育」『お茶の水女子大学比較日本学教育研究センター研究年報』、第6号、お茶の水女子大学比較日本学教育研究センター
- 森山新（2010b）「第10章 グローバル時代に求められる外国語教育とは」『グローバル文化学—文化を越えた協働—』法律文化社
- 森山新（2011）「グローバル時代に求められる多文化・多言語教育」『2011年国際シンポジウム多言語多文化同時学習支援くろしお・論文集』、宮崎大学国際連携センター
- 森山新（編）（2012）『世界8大学合同国際学生フォーラム2011』、お茶の水女子大学グローバル教育センター
- 森山新（編）（2013）『第8回日韓大学生国際交流セミナー報告書』、お茶の水女子大学グローバル教育センター
- 森山新・奥村三葉子・森田衛（2012）「TV会議システムを用いた総合的日本語教育：多文化・多言語サイバーコンソーシアムの成果と可能性」『ヨーロッパ日本語教育』16、ヨーロッパ日本語教師会
- Hill, B. and Allan R. (2003) Multicultural Education in Australia: Historical Development and Current Status. *Handbook of Research on Multicultural Education.*, Jossey-Bass.

Page 26





2. J-GAPについて

- 2010年8月 ICJLE2010（日本語教育国際研究大会）In台湾
「中等・高等教育における日本語教育代表者シンポジウム」
→アメリカ、香港、カナダ、ヨーロッパ、タイの代表が中等から高等教育へのアーティキュレーションの問題が提起された
⇒J-GAP（Japan Global Articulation Project）が立ち上げられる
- 2011年：日本、アメリカ、香港、カナダ、ヨーロッパ、韓国
- 2012年：オーストラリア、中国、台湾が加わり活動中
(<http://j-gap.wikispaces.com>)

Global Consortium 2013
STUDENT WORLD FORUM in TOKYO- Page: 13

釜山外国語大学
Busan University of Foreign Studies

シンポジウム「グローバル時代の日本語教育を考える」
韓国の日本語教育における新たな試み
高田 昭宏

2.1 J-GAP韓国の活動

- 釜山がモデル地域
- 2011年1月～：釜山地域の中学校2校、高校4校、大学5校で構成
- それぞれの教員及び国際交流基金の関係者などが月に1度集まり、縦と横のアーティキュレーション達成を目指し、活動中

Global Consortium 2013
STUDENT WORLD FORUM in TOKYO- Page: 14

釜山外国語大学
Busan University of Foreign Studies

シンポジウム「グローバル時代の日本語教育を考える」
韓国の日本語教育における新たな試み
高田 昭宏

2.2 釜山外国語大学の場合

BUS

- 1981年設立の私立四年制大学
- 7大学(学部) 40学部(学科)
- 学生数(学部計)：約9000名

・コミュニケーション日本語学部（通訳専攻、言語文化専攻）
・ビジネス日本語学部（ホテル観光専攻、ビジネスIT専攻）

→

- 学生数：約900名
- 教員数：韓国人16名、日本人17名

Global Consortium 2013
STUDENT WORLD FORUM in TOKYO- Page: 15

釜山外国語大学
Busan University of Foreign Studies

シンポジウム「グローバル時代の日本語教育を考える」
韓国の日本語教育における新たな試み
高田 昭宏

2.2.1 釜山外国語大学での問題点

§ 1,2年次に日本語基本科目を履修、3,4年次に専攻分野別の科目履修
→多様性○、各科目の連続性（アーティキュレーション）×

□ 科目の学習項目が学習者にとって既習であっても、必須科目であれば履修しなければならないため、既習者は他の学生たちに対する優越感や安心感から向上心が見られない。

□ ゼロ初級で入学した学生たちはあまりのレベル差に圧倒され自信をなくし、日本や日本語への興味も薄れ、居場所をなくしてしまうケースが見られる。
鄭（2012）

→

入学時には際立って日本語ができる学生がいたとしても卒業時にはそうではなくなっていることもあり、全体的に見ると突出したレベルの学生を数多く輩出しているとは言いがたい。

Global Consortium 2013
STUDENT WORLD FORUM in TOKYO- Page: 16

釜山外国語大学
Busan University of Foreign Studies

シンポジウム「グローバル時代の日本語教育を考える」
韓国の日本語教育における新たな試み
高田 昭宏

2.2.2 釜山外国語大学における新たな試み

- ①日本人教員が担当する科目のマニュアル化
日本語習得関連科目で同一科目のクラス数が最も多い日本人教員17名が担当する全ての科目について、使用教科書や目標・学習項目をマニュアル化し、学期毎に更新・共有し、関係を図っている。
- ②日本人教員が担当する科目の目標を「Can-Do」化
日本人教員が担当する全ての科目の目標をCEFRやJFスタンダードを参考に「Can-Do」化し、「この授業をとって、1学期間で何ができるようになるか」ということが明白になるようなシラバス作りを目指している。
- ③新入生へのレベルテストの実施と振り分け
インターネット日本語能力自動判定テスト「JCAT」(www.jcat.org/)を全新生に受験させ、点数によりA-0、A-1、B1の3レベルに振り分ける。これにより、これまでのように同じクラスにゼロ初級とN1所持者がいることはなくなり、一定程度のアーティキュレーションが達成できるものと期待される。

Global Consortium 2013
STUDENT WORLD FORUM in TOKYO- Page: 17

釜山外国語大学
Busan University of Foreign Studies

シンポジウム「グローバル時代の日本語教育を考える」
韓国の日本語教育における新たな試み
高田 昭宏

2.2 J-GAP韓国における課題

- 以上の問題点は、J-GAP韓国のモデル大学に共通の課題
- 取り組みは始まったばかりで、今後も試行錯誤を経てアーティキュレーション達成に少しでも近づけるような試みや努力が必要である。また、このような活動が韓国国内のほかの教育機関にも広がっていくと段階の異なる教育機関（初等教育から中等教育、中等教育から高等教育）における「縦のアーティキュレーション」の達成に結びつくとと思われる。
- 韓国の2007年改訂教育課程では「文化教育の強化と再分類化」が行われ、2009年改訂教育課程では「文化の成就基準（到達基準）」が作成されようとしているが、この点を踏まえ、鄭（2012）は、韓国の日本語教育では、言語と共に文化の教育を重視してきた背景があり、文化教育についてもアーティキュレーションを考慮していく必要があると述べている。

Global Consortium 2013
STUDENT WORLD FORUM in TOKYO- Page: 18

釜山外国語大学
Busan University of Foreign Studies

シンポジウム「グローバル時代の日本語教育を考える」
韓国の日本語教育における新たな試み
高田 昭宏

3. 日本語ディベート大会について

Global Consortium 2013
STUDENT WORLD FORUM in TOKYO- Page 19

부산외국어대학교
Busan University of Foreign Studies

シンポジウム「グローバル時代の日本語教育を考える」
韓国の日本語教育における新たな試み

高田 昭宏

日本語ディベート大会について

第1回韓国大学生日本語ディベート大会開催

2012年9月22日（土）

主催：在釜山日本国総領事館・釜山日本人会・韓国大学生日本語ディベート大会運営委員会

後援：国際交流基金ソウル日本文化センター・釜山KOREJAO-ターグループ・釜山韓日文化交流協会・大韓日語日文学会・釜山日本語教師会

Global Consortium 2013
STUDENT WORLD FORUM in TOKYO- Page 20

부산외국어대학교
Busan University of Foreign Studies

シンポジウム「グローバル時代の日本語教育を考える」
韓国の日本語教育における新たな試み

高田 昭宏

3.1 ディベートとは

- ある論題について異なる立場に分かれて討論することであり、教育目的のために行う「教育ディベート」は、①あらかじめ設定された論題を用い、②肯定、否定の両者の立場に分かれ、③一定のスピーチ時間、順番等の進め方の試合形式に従って行うものである。その目的は、単に討論者の優劣や勝ち負けを争うのではなく、討論に向けて準備し、実際に討論し、討論の経緯を振り返るという一連の過程を通して、語学力向上やテーマに対してより深い理解を得ることにある。
- Goodnight (1993) によると、ディベートは、リーダーシップ、調査や分析力、批判的思考力、偏見のない思考力、自分で考える力、スピーチ力、構成力、批判的聴解力などを育て、自信、チームワークと協力、そして楽しさを与える、と説明されている。

Global Consortium 2013
STUDENT WORLD FORUM in TOKYO- Page 21

부산외국어대학교
Busan University of Foreign Studies

シンポジウム「グローバル時代の日本語教育を考える」
韓国の日本語教育における新たな試み

高田 昭宏

3.2 企画から大会実施までの経緯

- 2011年9月、釜山を中心とした日本語教育機関の日本人教員の働きかけにより、新たな枠組みによる交流と日本語学習支援を目指し、韓国大学生日本語ディベート大会運営委員会が発足。
- 1学期間に2回ほど行われた交流会：毎回8〜11大学の教員、8大学約40名学生が参加し、ディベート学習や、その他日本語を用いたゲームやディスカッション等のアクティビティを行いながら、交流を深める。



Global Consortium 2013
STUDENT WORLD FORUM in TOKYO- Page 22

부산외국어대학교
Busan University of Foreign Studies

シンポジウム「グローバル時代の日本語教育を考える」
韓国の日本語教育における新たな試み

高田 昭宏

3.2 企画から大会実施までの経緯

- ディベート合宿：親交を深め、ディベートについて集中的に学ぶために、1泊でのディベート合宿も実施。合宿の企画に際しては、学生の自主性を促すため、各大学の学生代表を中心とした学生委員会を立ち上げた。合宿のコーディネートやイベント等は学生自らが。
- 教員向けの勉強会・ジャッジセミナー：教員も、勉強会やジャッジセミナーを複数回実施したり、大会や交流会の企画、運営のために会議を重ねたりした。大学間連携による行事を作り上げる過程で、教員間の交流が生まれ、知識や情報、経験等を共有することができた。



Global Consortium 2013
STUDENT WORLD FORUM in TOKYO- Page 23

부산외국어대학교
Busan University of Foreign Studies

シンポジウム「グローバル時代の日本語教育を考える」
韓国の日本語教育における新たな試み

高田 昭宏

3.2 企画から大会実施までの経緯

- プレ大会（2011年11月）と練習大会（2012年7月）：2012年にはディベート大会の2か月前に参加大学による練習大会を開催。これは、学生たちの動機付けを高め、学生のみならず、ジャッジや大会運営スタッフにとってもルールや流れの確認ができたという点において、大会の予行演習としても意義があった。



Global Consortium 2013
STUDENT WORLD FORUM in TOKYO- Page 24

부산외국어대학교
Busan University of Foreign Studies

シンポジウム「グローバル時代の日本語教育を考える」
韓国の日本語教育における新たな試み

高田 昭宏

3.2 企画から大会実施までの経緯

- 本大会（2012年9月）：
釜山地域を中心とした10大学40名が参加、スタッフ・関係者・審判などを含めると100名を超え、既存の日本語関連大会としては規模からも非常に大きなものとなった。



Global Consortium 2013
STUDENT WORLD FORUM in TOKYO- Page 25

부산외국어대학교
Busan University of Foreign Studies

シンポジウム「グローバル時代の日本語教育を考える」
韓国の日本語教育における新たな試み

高松 昭宏

3.3 成果

日本語能力(聴解力・思考力)の向上

思考力・チームワーク

- 従来の日本語学習では、“日本語で考える思考力”という部分はなかなか授業では養えなかった。しかし、ディベートを通してそれは可能となり、学生も身を持って感じたといえる。
- 大学によっては新たに学内サークルや勉強会が立ち上がるなど、学生の主体的活動が促進されていることがわかった。
- 教師にとっても、1つの行事を共同で主催することを通じてさまざまな知識や経験が共有できた。

Global Consortium 2013
STUDENT WORLD FORUM in TOKYO- Page 26

부산외국어대학교
Busan University of Foreign Studies

シンポジウム「グローバル時代の日本語教育を考える」
韓国の日本語教育における新たな試み

高松 昭宏

3.4 今後の課題と展望

- 共催団体関係者や当事者以外の日本語教師からも、日本語能力および使用場面のレベルの高さを評価され、成功裏に終了した
- ディベートは日本語の四技能のみならず論理的思考能力や情報収集能力、そしてチームワークを要するため、21世紀が必要とする人材を育成する人間教育の一つの手法としても期待できる。
- 今後の継続した大会開催、ひいては釜山以外での地方大会、全国大会への展開。
- 大会継続のためには、指導教員・大会運営委員・審判の確保が必須であるが、数年サイクルで大学を去る日本人教員の中から毎年それらを確実に確保するのは困難であり、今後は韓国人の教員および関係者の協力や学生自治が不可欠となる。

Global Consortium 2013
STUDENT WORLD FORUM in TOKYO- Page 27

부산외국어대학교
Busan University of Foreign Studies

シンポジウム「グローバル時代の日本語教育を考える」
韓国の日本語教育における新たな試み

高松 昭宏

4. 終わりに

4. 終わりに

- 「JGap韓国」と「日本語ディベート大会」という韓国の日本語教育における新たな試みを紹介したが、いずれもまだ始まったばかりで課題は山積みである。しかし、ディベートを含めたアーティキュレーションの達成は、21世紀が求める「日本語ができる社会人リーダー」の育成に大きくつながるものであり、今後も、継続した活動が望まれる。

Global Consortium 2013
STUDENT WORLD FORUM in TOKYO- Page 29

부산외국어대학교
Busan University of Foreign Studies

シンポジウム「グローバル時代の日本語教育を考える」
韓国の日本語教育における新たな試み

高松 昭宏

参考文献

- 王如哲（2006）『評鑑大学績效の新指標－就業力』『評鑑双月刊』
- 国際交流基金（2009）『海外日本語教育機関調査』
- 鄭起永他9名（2012）『アーティキュレーション達成のための2012年度J-GAP韓国の活』
- 動『日語日文学』第55集、P207～221
- 諏訪昭宏他5名（2012）『第1回韓国大学生日本語ディベート大会実践報告』『韓国日語教育学会2012年度第22回国際学術大会』予稿集、P138～142
- Lynn Goodnight(1993), *Getting Started in Debate*, The McGraw-Hill companies

Global Consortium 2013
STUDENT WORLD FORUM in TOKYO- Page 30

부산외국어대학교
Busan University of Foreign Studies

シンポジウム「グローバル時代の日本語教育を考える」
韓国の日本語教育における新たな試み

高松 昭宏

転換期を迎えた日本語教育の挑戦

—中国理工系大学の取り組み—

王冲
大連理工大学

2013/3/27

1

中国の日本語教育の現状

❖大学における日本語学科と学生数の増加

■ 初中等 ■ 高等 ■ 学校以外

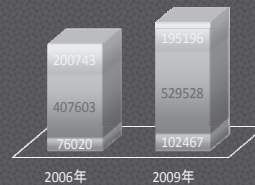


図1 2006年と2009年中国の日本語学習者数

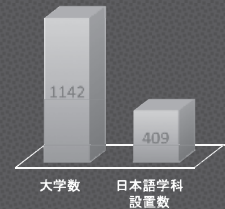


図2 2012年中国大学における日本語学科の設置状況

2013/3/27

2

中国の日本語教育の現状

- ❖日本語・日本に関する出版物の増加
- ❖各レベルの学会、研修会、交流会の急増
- ❖日本語コンクールの多種多様化



日本語
日本語学科

少数言語→多数言語
小規模な専攻→大規模な専攻

2013/3/27

3

中国の日本語教育の現状

❖就職環境の変化

- ・日本語専攻の学生の50%—60%は日系企業もしくは日中合併企業に就職していた(程2011:159)
- ・日系企業の採用の減少
- ・日系企業の中国からの撤退(ジェトロの調査結果)
- ・3・11地震



転換期を迎えている

2013/3/27

4

日本語教育の目標の変化

以前

日本語能力、
日本語コミュニケーション能力

日本語の習得

日本語に関する
仕事に従事
する能力

現在

日本語の異文化コ
ミュニケーション能力

日本語の習得を通し
てある種の専門知識
や技能を身につける

日本語以外の専門分
野の仕事に対応する
ことができる能力

2013/3/27

5

理工系大学における日本語教育の特徴

❖日本語学習のモチベーションが低い

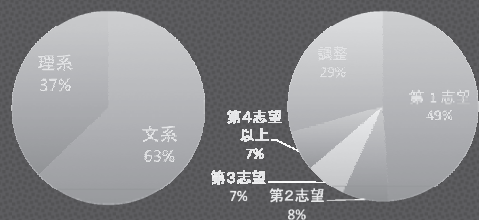


図3 日本語学習者の背景

図4 日本語学習者の入学時の志望

2013/3/27

6

理工系大学における日本語教育の特徴

❖ 理系的な学部運営

- ・ リソースが理工系の専攻より少なく、薄弱である
- ・ 授業の時間を減らして、実践の時間を増やしている
2008年（106/175単位＝60％）⇒2012年（96/175単位＝55％）
⇒語学教育には向いていない環境
- ・ 日本語教師には研究、学歴というプレッシャーがある
- ・ 人手が足りない、教師の授業の負担が重い
(14-16コマ/週)

日本語教師の成長と学生の成長にとって
よい環境とは言えない

2013/3/27

7

理工系大学の取り組み

❖ 「理工系の専攻＋日本語強化」の複合型人材育成プログラム

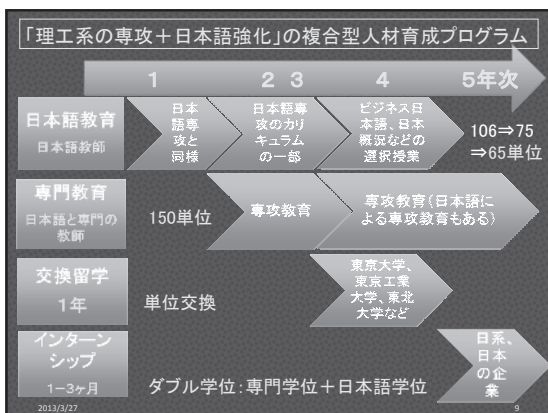
❖ 産学連携による日本語人材育成プログラム

❖ 「第二教室」プログラム

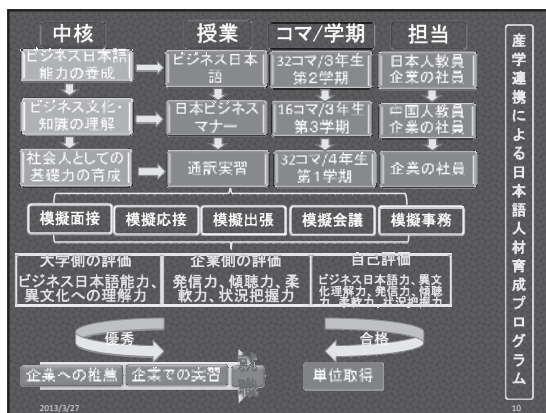
❖ 日本人短期留学生と中国人学生による協働的学習プログラム

2013/3/27

8



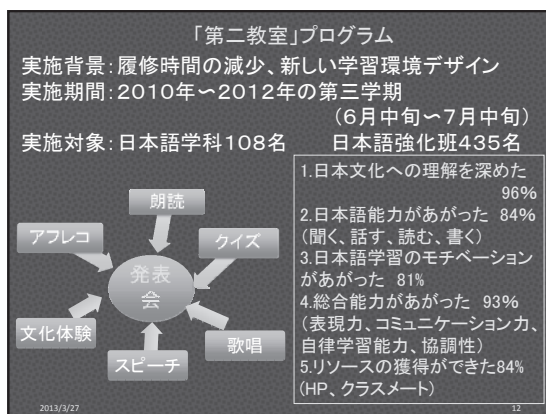
9



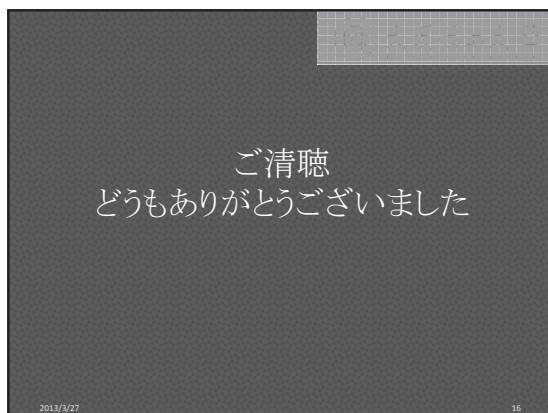
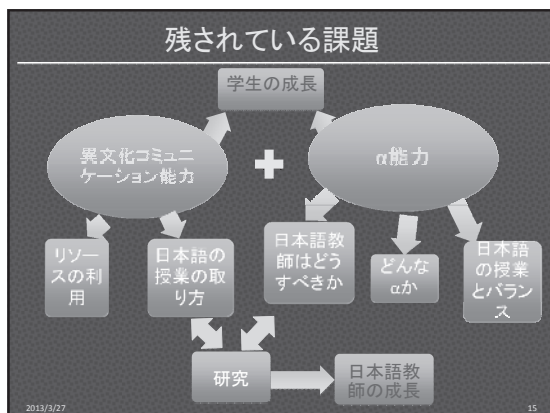
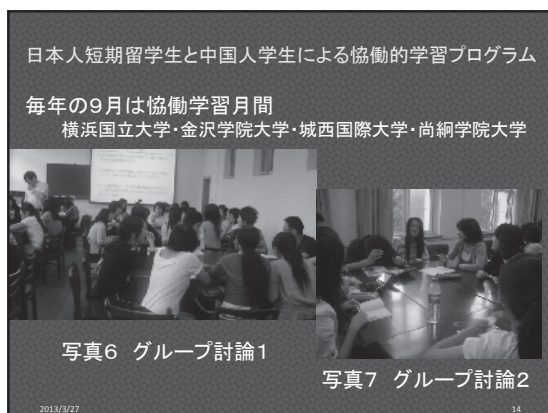
10



11

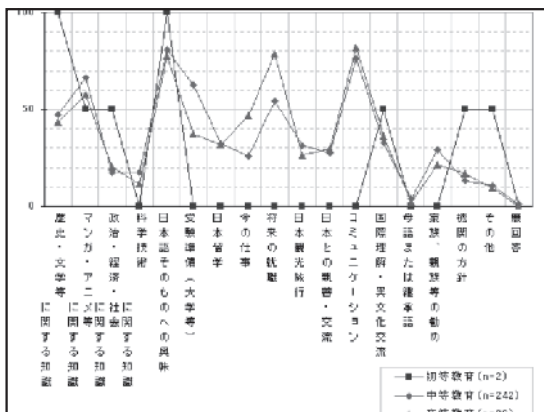


12



タイにおける日本研究の歩みと課題

日本語教育の現状

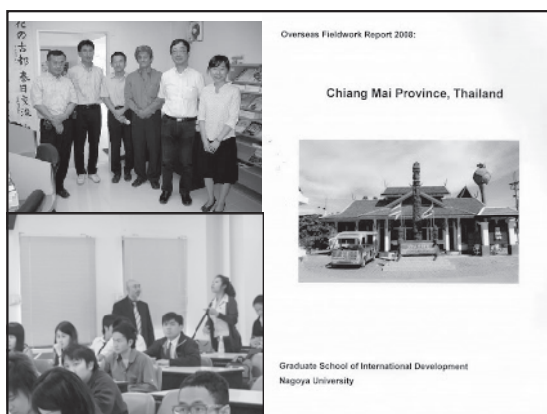
[illegible]

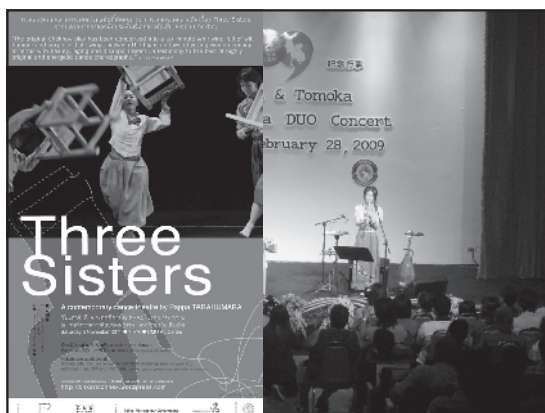
日本研究の発展



日本研究センター開設 2008年11月









進化する日本語教育に対する試み
ーワルシャワ大学日本学科の場合ー



岡崎恒夫(ワルシャワ大学)
佐野香織(元ワルシャワ大学
お茶の水女子大学)

ワルシャワ大学日本学科



合宿



日本学科





合宿恒例の儀式



柳桜会(りゅうおうかい)



さまざまな“学び”

合宿
柳桜会

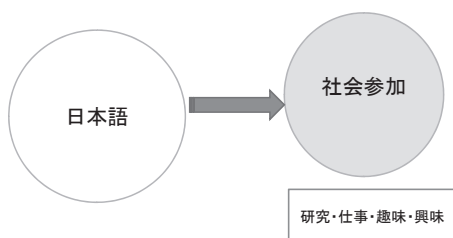
場所・時間・立場・人

ワルシャワ大の事例

- ・MMCC テーマ:ステレオタイプ
- ・ワルシャワ大使館付属日本人学校におけるワークショップ
- ・漢字ブログ
- ・作文支援サイト開発・実践

事例1:MMCC
パワーポイント プロジェクト

MMCCプロジェクトへの参加理由



実施の流れ

- (1) アンケート実施(イメージ調査)
- (2) アンケート 分析
- (3) パワーポイント教材: テーマ決定
- (4) 評価基準についての話し合い
- (5) パワーポイント教材作成
- (6) クラス内相互評価会
- (7) ブログ上での公開 → 意見交換

ポーランド人は泥棒だ



みなさんは
このイメージを持つ相手に
対して、どうしますか？

ワルシャワ大生の場合：

- ① ポーランドに対するステレオタイプは誤った
考えであるから、
誤った考えを「正しい」考えで塗り替える
- ②ステレオタイプではなく、個人や私たちの
観点から考えていきたい

実践、ふり返りを通したプロセスでどのような
「文化」概念が考えられ、批判され、新たに
生まれるのか常に意識を持つ

事例2 作文支援サイト開発・実践

CMCの「書く」支援

CMC(language learning practices through computer-mediated communication)

相互教授(山口・北村2009,山口他2011)

協働推敲(館野他2011)

- 読み手から書き手、という読み手方向的なコメント
- 読み手の評価を元にした書き手の返答のやりとり、という受身的な推敲活動に限られる

書き手が主体的に推敲に関わり、
読み手と共にことばを考えることが難しい

目指したこと

●双方向的なコミュニケーション

しかし、順序は「読み手 ⇒ 書き手」

問題点:

書き手は「指摘してくれる」ことを待つ「受け身」姿勢
書き手は読み手が指摘してくれたことだけに注目
言いたい表現を問う、迷いを先に伝える機会がない



書き手コメント機能(書き手から始めるやりとり)
実装

作文支援システムTEachOtherSを使って;

システムと学習者とのやりとりによる作文規則

学習者間での知識に基づくインターアクション

学習者間で使用検討を行う

書き手から始める
書き手コメント機能

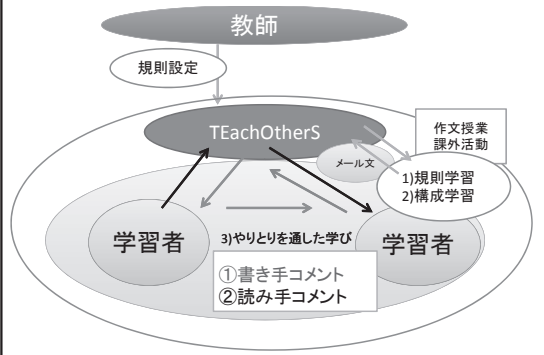
TEachOthers (山口昌也他2010)

TEachOtherSとは

TEachOtherSは、日本語教育の分野で、学習者の作文支援を目的としたシステムである。TEachOtherSは、学習者の作文支援を目的としたシステムである。TEachOtherSは、学習者の作文支援を目的としたシステムである。

大学学部生 初年次教育用
Wikiベースの作文支援システム

TEach OtherS を使った活動の流れ



書き手コメント機能

「三年生のオラ マリノフスカと申します。」

書き手コメント

知っている先生に対する「と申す」を使いますか?。。

A:はい、私もそう思います。「と申します」って、自己紹介の言葉でよね、
「です」を使った方がいいと思います。
B:私は「と申す」を使ってもいいと思います。でも「です」はもよく使います。
両方使ってもいいと思います。

読み手コメント

「三年生のオラ マリノフスカです。」

まとめ

能動的に状況を考え、選び、評価するプロセス

個々の、さまざまな状況、場面、立場で選びとる力
育成のための支援

ワルシャワ大学の桜



カレル大学における日本語の教育

金杉ペトラ
日本学科、東アジア研究所、カレル大学

チェコ共和国の地理関係



カレル大学



旧カリキュラム

卒業試験	日本語	社会代	思想	卒論
進級試験 (無学位)	日 本 語	歴 史	科 目 選 択	社 会 学 事 務
入学試験				

新カリキュラム (2005年9月以降)

卒業試験	日本語	言語 専攻	歴史 専攻	卒業試験
入学試験	日 本 語	文 学	社 会 学	入学試験
進級試験 (無学位)		日 本 語	文 学	進級試験
入学試験				入学試験

日本語の授業の制度

科目名	1年次履修	2年次履修	3年次履修
基礎	212	212	212
応用	212	212	212
総合	212	212	0
合計	648	648	0
履修科目	0	648	0
卒業科目	0	0	648
卒業科目	0	0	648

科目名	1年次履修	2年次履修
基礎	212	212
応用	648	0
総合	648	0
合計	648	648
履修科目	0	648
卒業科目	0	648

留学プログラム

欧州:

- Erasmus
- Erasmus Mundus
- CEEPUS (Central European Exchange Program for University Studies)
- AKTION (Bilateral Austria-Czech Republic Program)

日本:

- 文部科学省のプログラム
- 大学・学部との協定

世界八大学合同学生フォーラム
国際シンポジウム
「グローバル時代の日本語教育を考える」

日本語教育と「外からの目・内からの目」
ードイツ・ボン大学の場合ー



アジア研究科
日本・韓国研究

吉岡 薫

ヨーロッパの中のドイツ



2013.3.15

グローバルな見方を養うとは？

- ❖ 自分が外国を内側から見る目を養う＝「内からの目」
- ❖ 外国からの自分の国を見る目を意識する＝「外からの目」
- ❖ 自分の国をみつめる
- ❖ 自分のことをみつめる

2013.3.15

ドイツは多言語、多文化

- ❖ ドイツの人口8,175万人（日本1億2,700万人）
- ❖ ドイツ国籍を持つ移民と外国籍の居住者1,560万（人口の19%）
- ❖ 外国籍の居住者730万人（人口の8.9%）
(2008年時点)
- ❖ 2012年に40万人増加
- ❖ 内訳： トルコ290万人、旧ソ連諸国290万人弱

(NNA.EU Germany http://news.nna.jp/free_eu/news/20100209dem008A.html)

2013.3.15

Programme for International
Student Assessment “PISA Studien“

- ❖ 経済協力開発機構(OECD)諸国等の生徒の学習到達度調査
- ❖ 2000年開始（3年に一度実施）
- ❖ 対象年齢：15歳3ヶ月から16歳2ヶ月の生徒
- ❖ 科目：読解力、数学的知識、科学的知識のうち1テーマ
- ❖ ドイツの結果が思いのほか悪かった
→ 移民子弟の教育、ドイツ語力に焦点が当たった

2013.3.15

ヨーロッパの複言語・複文化
へ向けて

- ❖ エラスムス計画（1987～）
欧州連合の経済力の強化と加盟国間の結合促進をめざして学生や教員の交流が計られた。
- ❖ エラスムス・ムンドゥス留学奨励制度（2000～）
欧州内、また日本を含む欧州以外の地域との交流を通して、欧州の高等教育機関の連携を強め、その質を高めることを目的としている。

2013.3.15

Common European Framework of Reference for Languages: Learning, Teaching, Assessment (CEFR)

A Basic User

A1 Breakthrough or beginner

日常の簡単な表現を理解して、基本的なやりとりができる

A2 Waystage or elementary

B Independent User

B1 Threshold or intermediate

B2 Vantage or upper intermediate

C Proficient User

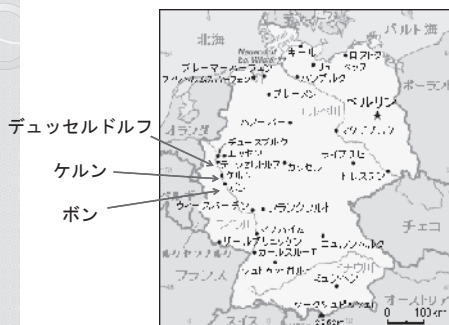
C1 Effective operational proficiency

C2 Advanced mastery or proficiency

あらゆる話題を理解して、細かい意味の違いも表現できる

各レベルをCan-do
という形で記述

ドイツの中のボン



ボン周辺での日本社会・文化情報

❖ 震災・エネルギー政策関係のシンポジウム

ケルン大学とケルン日本文化会館主催

「省エネ技術と代替エネルギー」

「代替エネルギーをどう確保するか」

(2012年)

「福島第一原発事故をどう将来に生かすか」

(2013年)

ボン大学主催

「メディア・コンテンツと災害」(2012年)

❖ デュッセルドルフ(400の日本企業、8千人の日本人)の情報

ボン大学の日本語教育

アジア研究	学部 1 年	2 年	3 年
人数	120人	80人	50人
授業とコマ数	文法 1、 口頭練習 2、 読み書き 1	文法 1、 口頭練習 2、 読み書き 1	口頭練習 2、 読み書き 1
教科書	『げんき』I, II	『げんき』II 『新 日本語の中級』 『ニュー アプローチ 中級日本語』	『新日本語の 中級』 『ニュー アプローチ 中級日本語』

シラバス：Can-do記述

例：3年生 1 学期『新日本語の中級』

課	テーマ	スキル	目標Can-do
13	苦情を言う 謝る	口頭言語 CanDo	相手の気持ちを考えながら、苦情 が言える ◎事情を説明して謝ることができる ○ドイツ語で書かれた注意書きを 日本人にわかりやすく説明できる
		文字言語 CanDo	注意書き等の掲示物を読んで理解 し対応できる

学生：課ごとのCan-do 記述自己確認

教科書の課の機能をCan-do記述化したシートを配布、
各自で課の終了時、学期末復習時に確認

	I can	ぜんぜん できない	例	よく できる
13課	ドイツのマナーを知らない日本人に注意してあげることができる。			
	ドイツの注意書きの意味を日本人に説明してあげることができる。			

2011-12 翻訳コンテスト課題テキスト

1. 池上彰・文藝春秋編 「俺が命の船になる」『東日本大震災 心をつなぐニュース』 (c) 2011株式会社文芸春秋
2. 歌詞「手紙 ～拝啓十五の君へ～」アンジェラ・アキ（2008年、第75回NHK全国学校音楽コンクール中学生の部の課題曲）
3. Cornelia Funke, Das beste Fundstück aus: Leselöwen-Strandgeschichten illustriert von Kerstin Schliche und Bernhard Mark (c) 1999

2013.3.15

2012-13 翻訳コンテスト課題テキスト

1. 河北新報ニュース第11部・託す
（4）福島県立小高工高校長／就職率
100％掲げ実現／復興見据え人材育成
2. 歌詞「主人公」さだまさし
3. Axel Hacke, Heißer Draht aus: Der kleine Erziehungsberater. 2006

2013.3.15

文化理解教育に向けた考察 ポピュラーカルチャーの授業を通して

ヴァッサー大学
ドラージ土屋浩美



Vassar College

- 創立1861年
- 学生数: 2,386
- 男女比: 男44%、女56%
- 学生・教師比率: 8:1
- 場所: ポークepsie NY
- 日本語学習者
 - 一年生 30人ほど
 - 二年生 20人ほど
 - 三年生 15人ほど
 - 四年生 5, 6人
- 日本語専攻 20人ほど



お茶の水女子大学におけるサマー コース(2006ー2009)

- 8週間のインテンシブ
夏季語学研修(2年生
対象)
- お茶の水女子大グロー
バルスタディーズコース
の学生さんとのジョイン
トプロジェクト
- 英語の授業参加 など



Content courses

- Literature
 - Introduction to Japanese literature
 - The West in Japanese literature
 - Chinese and Japanese Women's literature
 - Gothic and supernatural in Japanese literature

Cultural Events



グローバリゼーションの時代 の日本とは？

- 人の接してきた文化や環境は多様
- 価値観もひとつとはいえない

⇒ 日本人像はひとつではない。

- 日本文化を教えることも大切だが、学習者に文化を気づかせることも必要だ。

言語教育と文化理解教育の融合

Japanese Popular Culture and Literature Courseの例

Japanese 224 Japanese Popular Culture and Literature

- 講義は英語、
- レポートも英語

Japanese 324 Japanese Popular Culture and Literature
(for Japanese majors)

- 講義は英語（授業外で日本語ディスカッションもある）
- レポートは日本語
- ほか、語学関連の課題

Japanese Popular Culture and Literature 扱った作品例：

小説）

村上龍『コインロッカーベイビーズ』[69]
村上春樹『ノルウェイの森』
よしもとばなな『キッチン』
依まち『サラダ記念日』
桐野夏生『OUT』

アニメ）

大友克洋『AKIRA』
宮崎駿『千と千尋の神隠し』『もののけ姫』

映画）

山田洋二『幸福の黄色いハンカチ』
森田芳光『家族ゲーム』
周防 正行『Shall We ダンス』
『電車男』下妻物語』

ライトノベル）

野村美月『文学少女と死にたがりの進化』 などなど

JAPA 324 採点

- 出席・参加： 20%
- ディスカッション(日本語＋英語)： 10%
- リアクションペーパー(日本語)： 15%
- 携帯小説の翻訳 20%
- ファイナルレポート(日本語) 30%
- プレゼンテーション(英語) 5%

Koizora

一章 恋来(koirai)

「あー!! 超おなか減ったし〜っ!」
待ちに待った昼休み。
美嘉はいつものように机の上で弁当を開く。
学校は面倒だけど、同じクラスで仲良くなったアヤとユカと一緒に弁当を食べるのが学校生活の中で唯一の楽しい時間だ。

Chapter One: Koirai (恋来)

“Ah, I'm sooo hungry!”
It's finally time for lunch.
As usual, I open my bento on top of the desk.
School is troublesome, but the only time I look forward to is eating bento together with Aya and Yuka, my friends from the same class.
I had just entered high school as a freshman this April.
Although it's only been three months since I entered, I was able to make close friends, and I've spent every day satisfied.



ポップカルチャーを扱う利点

- 教科書用に作られたものではない。日本人の生の表現、日本人が発信する文化の面白さ
- 海外の学生にとってJpop Cultureは、すでに若者文化の一部でもある。
- ポップカルチャーを通しての議論から見える分析、読みの「スレ」

⇒ 異文化



グローバル時代における異文化理解

- 知識をえることだけでなく、ポリティカルコレクトネスを養う。
- 世界は近くなったが、インターネットには他国の中傷などあふれている⇒目指すグローバル時代からほど遠い
- ポリティカルコレクトネスはグローバル市民にとっての共通価値観であるべき
- <他>文化を理解する⇒<多>文化を理解する